令和 3 年度

第 3 回 千葉市廃棄物減量等推進審議会

会議録

日時 令和 4 年 3 月 2 4 日（木）午前 10 時 00 分～10 時 50 分
場所 千葉市役所 8 階 正庁

(午前10時 開会)

【伊橋廃棄物対策課課長補佐】定刻となりました。委員の皆様におかれましては、ご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまより、千葉市廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。私は、本日の進行を務めさせていただきます、廃棄物対策課課長補佐の伊橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、開会にあたりまして、環境局長の柁戸よりご挨拶を申し上げます。

【柁戸環境局長】おはようございます。環境局長の柁戸でございます。本日はお忙しいなか、お集まりいただきましてありがとうございます。委員の皆様方には、日頃より、廃棄物行政をはじめ、市政各般にわたりまして、ご理解・ご協力いただいておりますこと、御礼申し上げます。

委員の皆様には、昨年10月の審議会におきまして、「現行計画の個別27事業の実施状況と次期計画への継続性評価」、「ごみ量の将来予測」、並びに「数値目標の項目設定」などにつきましてご審議いただきました。いただきましたご意見を踏まえまして、事務局において、次期計画の骨子（案）の作成を進めてきたところでございます。

本日の審議会では、次期計画の骨子（案）をご審議いただきますとともに、次期計画の策定に係る基本的事項についての答申（案）につきましても、ご審議賜りたいと存じます。次期計画が実効性のあるものとなりますよう、委員の皆様方のお力添えをお願い申しあげまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【伊橋廃棄物対策課課長補佐】本日の審議会につきましては、「千葉市廃棄物の適正処理及び再利用等に関する規則」第4条第2項の規定により、委員の半数以上の出席が必要となりますが、委員総数19名のところ15名の出席をいただいておりますので、会議は成立しております。粟屋委員、三宅委員、相原委員、福永委員については、所用のため御欠席との連絡をいただいております。

続きまして、事務局を紹介させていただきます。環境局長、柁戸でございます。

【柁戸環境局長】柁戸でございます。よろしくお願いいたします。

【伊橋廃棄物対策課課長補佐】環境保全部長、安西でございます。

【安西環境保全部長】安西でございます。よろしくお願いいたします。

【伊橋廃棄物対策課課長補佐】資源循環部長、足立でございます。

【足立資源循環部長】足立でございます。よろしくお願いいたします。

【伊橋廃棄物対策課長補佐】その他の職員につきましては、席次表をもって紹介に替えさせていただきます。

本日の会議の進行につきましては、会議次第に従って進めてまいります。

資料につきましては、委員の皆様へ事前にお送りしておりますが、本日、改めて、全ての資料を机上に配布させていただいております。ここで、配付資料の確認をさせていただきます。

最初に、次第、席次表、委員名簿、関係法令。

次に、配布資料ですが、資料1-1「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 骨子（案）」。

資料1-2「食品ロス削減」に関連する施策の展開について」。

資料1-3「食品ロスの削減に係るフロー図」。

資料2-1「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定に係る基本的事項について 答申（案）」。

資料2-2「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定に係る基本的事項について（諮問）【写】」。

資料2-3「意見票」。

参考資料1「次期千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 計画策定スケジュール」。

参考資料2「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画【平成29年3月策定】の概要」。

また、閲覧用としまして、「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の計画書冊子を置かせていただいております。資料の過不足等はございませんでしょうか。

なお、本審議会は、会議録を含め公開となっておりますので、委員の皆様におかれましては、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

それでは、これより議事に入らせていただきます。これからの議事の進行については、三須会長をお願いいたします。三須会長、よろしくをお願いいたします。

【三須会長】おはようございます。それでは、次第に沿いまして、議事の進行をさせていただきます。

議題（1）「次期「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の骨子について」。事務局より説明をお願いします。

【東端廃棄物対策課長】おはようございます。廃棄物対策課の東端でございます。恐れ入りますが、座って説明をさせていただきます。

議題1の説明に入る前に、前回の審議会以降の計画策定の経過と今後の予定について、簡単にご説明をいたします。参考資料1「次期千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 計画策定スケジュール」をご覧ください。

表の3段目、「協議体」の欄をご覧ください。「1 廃棄物減量等推進審議会」が、本審議会となりますが、令和3年度10月中旬の欄に、②と記載してあるのが、前回の開催でございます。令和3年度3月下旬の欄に、③と記載してあるのが、本日の開催でございます。

前回の審議会におきましては、現行計画の継続性評価や数値目標項目などについてご審議いただきました。

その後、協議体の欄の2行目に記載してある「2 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画部会」を11月と2月に開催しております。部会には、倉阪委員、藤原委員、粟屋委員、武井委員、飯田委員の5人の委員の皆様にご参加いただき、計画骨子の内容についてご意見をいただきました。その内容を、議題（1）で報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、来年度の予定について、簡単にご説明いたします。本審議会は、表に記載のとおり、4回の開催を予定しております。

また、市長からの諮問に対する答申を、5月下旬から6月上旬ごろに予定をしております。答申案は、議題（2）で説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

計画につきましては、表の一番上の「計画策定」の欄に記載のとおり、9月末頃までを目途に、計画案の作成作業を行う予定です。また、表の一番下の欄に記載のとおり、12月頃にパブリックコメント手続きを行ったうえで、3月までに計画を策定していきたいと考えております。計画策定に関する今後の予定についての説明は以上でございます。

続いて、資料1-1「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 骨子（案）」をご覧ください。今回の骨子案は、計画書冊子の構成に近い形といたしまして、計画書冊子に掲載する項目を、ひと通り網羅する形で取りまとめたものでございます。

1ページをご覧ください。1「計画策定の趣旨」についてです。（1）で「目的」、（2）で「位置付け」を記載しております。（3）の「計画期間」につきましては、2023年度（令和5年度）から2032年度（令和14年度）までの10年間を計画期間とし、5年目の2027年度（令和9年度）を、中間目標年度といたします。

次に、2ページと3ページをお開きください。ここでは、廃棄物・資源循環分野における近年の動向と社会的課題について記載しております。時間の都合上、各項目の内容は読み上げませんが（1）のSDGsから（8）の新型コロナウイルスまで、トピックを8項目記載しております。

次に、4ページをご覧ください。ここからは、本市におけるごみ処理の現状と課題をまとめております。まず、（1）「ごみ処理の現状」です。（ア）「ごみ・資源物の排出状

況」についてですが、ごみ量の推移と直近のごみの組成について説明し、それぞれ、表1「ごみ量の推移」、図1「ごみ組成分析結果」を掲載しております。

続いて、5ページをご覧ください。イ「前計画における取組み」です。ここでは、平成28年度に策定した前計画の基本方針ごとの取組みの概要を簡単に説明しております。

続いて、6ページをご覧ください。ウ「前計画の目標達成状況」です。ここでは、前計画の5つの数値目標の達成状況について説明しています。7ページの表2は、各年度の達成状況をまとめたものでございます。

また、7ページのエ「ごみ処理費用」については、環境省の「一般廃棄物会計基準」による原価計算に基づいたごみ処理費用について記載しております。

続きまして、8ページをご覧ください。(2)「ごみ処理の課題(本計画に求められる課題)」として、プラスチックや食品ロスなど10項目について記載しております。

次に、9ページをご覧ください。ここからは、本計画の内容に入っていきます。

まず、4「基本理念」についてです。基本理念は、計画で目指すべき姿を端的に表現したもので、本市がごみ処理を行っていくうえでの指針となるものです。

庁内でも多くの議論がありましたが、部会でいただいたご意見も踏まえ、「みんなでつくり 未来へつなぐ 循環型社会 ～持続可能なまちづくりと脱炭素への貢献～」という基本理念を作成いたしました。

主題において、「ごみ処理基本計画」で目指すべき姿として「循環型社会」を提示し、副題において、それによって貢献できる内容として「持続可能なまちづくり」と「脱炭素」を示したものでございます。

(2)は、基本理念と3Rの関係、(3)は、基本理念と基本方針・個別事業の位置付けをイメージ図で示しています。イメージ図にあるとおり、まず、基本理念があり、その下に、基本理念を達成するための手段として3つの基本方針があり、基本方針ごとに、個別事業を位置付けていくこととなります。

次に、10ページをご覧ください。5「基本方針及び施策の展開」です。3つの基本方針、方向性、施策展開について記載しております。

まず、「基本方針1 発生抑制(リデュース)・再使用(リユース)」についてですが、基本方針案を「発生抑制(リユース)、再使用(リユース)をさらに推進することで、ごみを減らし、モノの価値を最大限に活かす社会を目指します。」としました。

循環型社会の構築に向けて、まずは、ごみの発生抑制に取り組むことを基本としつつ、「モノの価値を最大限に活かす」という言葉で、再使用の意義を表現したものです。

「方向性」については、記載のとおりです。

「施策展開」については、前計画と同様の項目もございますが、個別事業NO. 4「プラスチックごみの発生抑制の推進」と、NO. 6「食品ロスの削減の推進」については、今後対応が求められる課題として、新規に設定したものでございます。

また、NO. 9については、前計画では「C-EMSによる市庁舎等における率先した3Rの推進」としておりましたが、市の取組みをより幅広くとらえ、「市の事業における率先した3Rの推進」と、表現の修正を行っております。

なお、今申し上げましたC-EMSとは、市独自の環境マネジメントシステムのことを指します。千葉のアルファベット頭文字「C」と、環境マネジメントシステムの略称「EMS」を合わせた言葉で、市の施設を対象とした取組みについて定めたものでございます。

続いて、11ページをご覧ください。「基本方針2 再資源化（リサイクル）」についてですが、基本方針案を「適正なごみの排出・分別と再資源化（リサイクル）の取組みにより、資源循環の促進と焼却ごみの削減を目指します。」といたしました。

再資源化を進めるためには、適正な排出・分別の徹底が基本となることから、改めて基本方針に記載するとともに、引き続き、焼却ごみの削減を目指していくことを表現したものでございます。

「方向性」については、記載のとおりです。

「施策展開」は、前計画から個別事業をひとつ減らしております。削除したのは「剪定枝等の再資源化の推進」で、この5年間で、剪定枝等の再資源化については、ある程度定着し、収集量も目標値に近づいてきていることから、独立した個別事業とするのではなく、各個別事業のなかの一施策として、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

また、NO. 16については、前計画においては「さらなる再資源化品目の検討・推進施策」という事業でしたが、本計画の計画期間中に検討を行う対象として、ターゲットをプラスチックに絞り、事業名を「プラスチックの再資源化の推進」といたしました。

続いて、12ページをご覧ください。「基本方針3 ごみ処理システムの構築」についてですが、基本方針案を「様々なリスクに対応できる、安定と効率性を兼ね備えた強靱なごみ処理体制を目指します。」といたしました。

近年は、世界各地で多くの自然災害が発生しているほか、新型コロナウイルスのように予測が難しい事象も発生しており、そのような様々なリスクにも対応できる強靱なごみ処理体制を目指していくこと表現したものです。

「方向性」については、記載のとおりです。

「施策展開」につきましては、NO. 17から23までは、一部、表現の修正や事業の再編成を行った箇所がございますが、内容自体に大きな変更はございません。

新たに設定するのが、NO. 24「非常時における廃棄物の適正処理の推進」です。自然災害の発生や感染症流行期などの非常時におきましても、廃棄物を適正に処理するための備えをしておく必要があることから、新たに設定を行うものです。

なお、NO. 1から24までの個別事業に設定する各種の取組みについては、現在調整を行っているところであり、来年度、計画案の策定を進めていくなかで、お示ししていく予定です。

次に、13ページをご覧ください。6「数値目標」について説明をいたします。

表3「本計画における数値目標一覧」をご覧ください。本計画では、記載の7項目を数値目標として設定することとしております。11月と2月に開催いたしました部会においては、これらの数値目標の水準についてご議論をいただき、最終目標値を、表3の一番右の列に記載する数値といたしました。

それでは、数値目標項目ごとに説明いたします。13ページの下部、(1)「総排出量」の四角囲みの欄をご覧ください。総排出量は、計画最終年度となる2032年度（令和14年度）に、市民1人1日あたり847グラム以下とすることを目標といたします。これは、直近の2020年度（令和2年度）比で、約10%の削減を行うものです。

この削減幅につきましては、5%、10%など、複数パターンを検討を行いましたが、他政令市の削減目標の平均が約10%であることや、2025年度の国の目標が1人1日あたり850グラム、千葉県の目標が同825グラムとされていることなどを参考として、設定したものです。

続いて、14ページをご覧ください。これ以降の目標値につきましては、総排出量を10%削減することとした場合に、それぞれの数値がどの程度になるかを試算して設定したものでございます。

まず、(2)「家庭系ごみ排出量」です。1人1日あたり400グラム以下とすることを目標といたします。これは、2018年度から2020年度までの直近3か年平均との比較で、約19%の削減を行うものです。

各数値目標の削減率の基準年度は、基本的に直近年度の2020年度（令和2年度）としていますが、ここでは直近3か年平均としています。

これにつきましては、四角囲みの下に記載しているコメントの3番目の○をご覧ください。2020年度は新型コロナウイルス感染症、2019年度は房総半島台風等の影響によりごみ量が増加しており、いわば、異常値を基準とすることで、適切に削減率を表すことができないことから、過去3か年平均を基準といたしました。

続いて、(3)「事業系ごみ排出量」です。総量で6万3,000トン以下とすることを目標

といたします。事業系ごみ排出量についても、新型コロナウイルス感染症の影響があったことから、削減率の基準年度を過去3か年としております。

続いて、(4)「焼却処理量」です。総量で19万7,000トン以下にすることを目標といたします。これは、2020年度比で約16%の削減を行うものです。

続いて、(5)「再生利用率」です。2032年度に37%以上とすることを目標といたします。これは、2020年度比で約5ポイントの上昇となります。

再生利用率につきましては、2026年度(令和8年度)から新清掃工場が稼働することに伴い、清掃工場から発生する焼却主灰のすべてが再資源化されることや、プラスチックの分別収集・再資源化の実施を前提として、これらの効果を積み上げて数値設定を行ったものです。

続いて、15ページをご覧ください。(6)「最終処分量」です。2032年度に8,600トン以下にすることを目標といたします。これは、2020年度比で約51%の削減を行うものです。

最後に(7)「温室効果ガス排出量」です。2032年度に7万1,000トン以下にすることを目標といたします。これは、2020年度比で約33%の削減を行うものです。

四角囲みの下に記載しているコメントの3番目の○をご覧ください。本計画におきましては、本市の温室効果ガス排出量の削減目標を定める「千葉市地球温暖化対策実行計画」との整合性を図り、算出方法につきましては、同計画に合わせる形で統一したいと考えております。

「地球温暖化対策実行計画」は、令和4年度中の策定を予定していることから、両計画で歩調を合わせ、本市の温室効果ガス排出量の削減目標を定めてまいります。

なお、ごみ処理のフローと数値目標の関係については、15ページの下部に掲載しているイメージ図で表しています。

次に、16ページをご覧ください。16ページから19ページまでが、「食品ロス削減推進計画」です。「食品ロス削減推進計画」は、「食品ロスの削減の推進に関する法律」により自治体に策定が要請されており、本市では今回初めて策定いたします。今年度に、環境局以外の関係課も参加するワーキンググループを設置して検討し、内容をまとめたものです。

まず、(1)で「計画の位置づけ」、(2)で「食品ロスの定義」について記載しています。

次に、(3)で「食品ロスが引き起こす問題」を、ア「環境問題」と、イ「食糧問題」に分けて記載しています。

(4)では、「食品ロスに関する関心の高まり」につきまして、「SDGsにおける目標」と「国が掲げる目標」を記載しています。

続いて、17ページをご覧ください。（5）では、「食品ロスが発生する主な要因」に関して、ア「家庭で発生する食品ロス」、イ「事業所等で発生する食品ロス」に分けて、主な要因を記載しています。

次に、（6）「食品ロスの現状」です。まず、ア「国の状況」ですが、農林水産省の推計によりますと、2019年度の国内の食品ロス量は約570万トンで、内訳は、家庭系が261万トン、事業系が309万トンとなります。

次に、イ「本市の状況」です。まず、（ア）「家庭系食品ロス量」につきましては、「ごみ組成測定分析」の結果から、2020年度の食品ロス量を約4,500トンと推計いたしました。

続いて、18ページをご覧ください。（イ）「事業系食品ロス量」です。事業系食品ロス量につきましては、実態把握が難しく、事務局としては、数値の推計や数値目標の設定を行わないことも考えておりましたが、部会において、「事業者の方々にも取り組んでいただくというメッセージを発信するという意味でも、何らかの形で、現状値の推計と目標の設定を行うべきである」とのご意見をいただきました。

そこで、今回は、国が発表している業種ごとの食品ロス量の推計値を活用し、1事業者あたりの食品ロス量の推計値を算出して、市内の事業所数にかけ合わせることで、食品ロス量の推計を行いました。本市における2019年度の事業系食品ロス量は、約9,500トンと推計しております。

続いて、19ページをご覧ください。（7）「数値目標」についてです。

まず、ア「家庭系食品ロス量」です。2032年度に3,300トン以下とし、2020年度比で約25%の削減を目標といたします。

なお、資料に記載はありませんが、国が定めている削減目標と同じ割合で削減することとした場合、目標値は約3,600トンとなることから、この目標値を設定することにより、国の目標を上回る削減率を目指すことになります。

次に、イ「事業系食品ロス量」です。こちらにつきましては、現状、本市で調査した数値を持っていないことから、今回は、国の削減目標と同じ割合での削減を前提として、目標値を設定いたしました。2032年度に食品ロス量を8,200トン以下とし、2019年度比で約14%の削減を目標といたします。

続いて、8「施策の展開」についてです。これにつきましては、資料1-2「食品ロス削減」に関連する施策の展開について」をご覧ください。

この資料に掲載されている表は、「食品ロス削減ワーキンググループ」に参加した所管課の取組みをまとめ、分類整理を行ったものです。（1）で「食品ロス削減に関する各種啓発等」に係る取組みをまとめています。

続いて、裏面ですが、(2)は「食品ロス削減に関する仕組みづくり」に係る取組み、(3)は「食品廃棄物(生ごみ)の再資源化促進」に係る取組みとして、それぞれまとめたものです。

今後の検討のなかで、所管課同士の連携や、将来の実施を検討する新規施策につきましても、可能な限り盛り込んでいきたいと考えております。

次に、資料1-3「食品ロスの削減に係るフロー図」をご覧ください。計画書冊子の段階では、このようなフロー図も載せていきたいと考えております。「食品ロス削減推進計画」の説明は以上でございます。

資料1-1「計画骨子案」にお戻りいただき、20ページをご覧ください。8「計画の推進」です。

ここでは、ア「市民の役割」、イ「事業者の役割」、ウ「市の役割」について、それぞれ記載しています。

最後に、21ページの(2)で、「計画の進行管理・見直し」について記載しています。

説明は以上となります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【三須会長】ありがとうございました。それでは、ただいまのご説明につきまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。

【倉阪委員】1か所、微妙な誤りがありますので、確認していただきたいのですが、資料1-1の2ページで、「2015年9月の国連総会において、SDGsが示され」と記載されていますが、正確に言うと「国連サミット」で採択されています。16ページの「食品ロス削減推進計画」のところでは、「2015年の国連サミットで採択された」と正確に記載されているので、2ページも「国連サミットで採択された」と、記載を統一したほうがよいと思います。

調べたところ、9月25日から27日までが国連サミットの会期で、9月26日から10月2日までが国連総会の会期となっています。微妙に違っていますので、ご確認をお願いいたします。

また、この骨子の段階で、一般の方々に公開することになるのでしょうか。

【東端廃棄物対策課長】今回の審議会の資料として、公開いたします。

【倉阪委員】一般の方にとっては、説明がないと分からない用語があると思います。例えば、「バーゼル条約」、「ICT」、「フードシェアリング」、「フートバンク」、「3分の1ルール」、「ちばルール」など、専門家にとっては当然に分かる用語であっても、一般の方にも見てもらうためには、注記を入れるべきであると思います。

【東端廃棄物対策課長】ご指摘ありがとうございます。SDGsのところは、改めて事実確認

を行って、修正をさせていただきたいと思います。

また、骨子に記載されている用語については、確かに、調べないと分からないような用語がたくさんあると思いますので、用語集などについても、検討してみたいと思います。

【藤原委員】令和4年4月1日から「プラスチック資源循環促進法」が施行されますが、昨年以來、「脱炭素」という大きなテーマが、廃棄物処理の分野でも大きなうねりになっていると思います。そのあたりが、今回のこの計画のなかにバランス良く盛り込まれているので、骨子案の内容については好印象を受けます。

引き続き、特に「脱炭素」については、大きな課題があると考えますので、そのあたりをうまくアップデートしていければとよいと思います。

【酒井委員】骨子案全体としては、さきほどもお話があったように、昨今の社会情勢の変化をかなり踏まえた形に仕上がっている印象を受け、好感を持てる内容になっていると思います。

特に、目標のところはかなり意識をしていて、具体的な明示をしており、前計画と比べてかなり踏み込んだ内容となっている印象を受けるのですが、目標設定について、前計画との違いが分かる説明を、少ししていただければと思います。

【東端廃棄物対策課長】「循環型社会」という目指すべき方向は従前どおりですが、やはり、「脱炭素」という点が大きな違いになると考えています。従来は「低炭素」の実現に寄与するための取組みであったのが、今回は「脱炭素」の実現への寄与ということになります。

国として「低炭素」から「脱炭素」に移行するなかで、今回の計画で言えば、プラスチックの取扱いが非常に大きなターゲットとなっており、どのように方向性を定めていくのかいうところが、重要なポイントになると考えています。

【足立資源循環部長】補足させていただきますと、数値目標に関しては、市民や事業者の方にも分かりやすい目標ということで、今回「家庭系ごみの排出量」と「事業系ごみの排出量」の2項目を新たに設定いたしました。

これは、部会における意見などを踏まえ、市全体で取り組んでいくという方向性を強く打ち出すために、設定を行ったものです。

【柘戸環境局長】もう一点補足させていただきますと、さきほども説明いたしましたが、「脱炭素」に関連して、温室効果ガスの削減目標が大きなテーマとなりますが、この「ごみ処理基本計画」と「地球温暖化対策実行計画」の策定作業に関しては相互の連携を図り、整合性をとりながら進めていきたいと考えています。

【秋元委員】「資料1-1」の21ページ、(2)「計画の進行管理・見直し」、ア「計画・

目標の共有化」のところで、本計画を広くPRしていくということが記載されています。隅々までというのはなかなか難しいと思いますが、せつかく市が一生懸命力を入れて、いい計画が出来たとしても、皆さんに理解してもらえないと、市民・事業者・市の3者で協働して進めることは出来ませんので、例えば、市民に理解してもらうために、「ちば市政だより」に記事を掲載するなど、計画のPR方法についても十分に検討していただければと思います。

【東端廃棄物対策課長】ご意見ありがとうございます。計画をPRする方法は様々にあると考えますが、「計画書冊子」の他に「概要版リーフレット」を作成いたします。市ホームページへの掲載、市の各施設への配架に加え、「出前講座」等のテキストとして使用するなど、あらゆる機会をとらえて周知をさせていただければと思っています。

【秋元委員】よろしく申し上げます。

【三須会長】ほかに、ご意見等がないようですので、本件についての審議を終了させていただきます。

続きまして、議題（2）「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定に係る基本的事項について 答申（案）」について、事務局より説明をお願いします。

【東端廃棄物対策課長】それでは、議題（2）について、説明させていただきます。

はじめに、資料2-2「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定に係る基本的事項について（諮問）【写】」をご覧ください。昨年7月でございますが、計画の策定に係る基本的事項につきまして、市長から本審議会に対し、諮問させていただきました。

諮問の趣旨は、裏面に記載のとおりでございますが、下から3行目をご覧ください。計画策定にあたり、「基本理念・基本方針の考え方」、「数値目標」、「施策展開の方向性」についての基本的事項をご審議いただきたく諮問を行ったものでございます。

今回、この諮問に対する答申案につきまして、今年度の審議会及び部会において、委員の皆様からいただいたご意見を集約する形で取りまとめを行いましたので、説明させていただきます。

資料2-1「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定に係る基本的事項について 答申（案）」をご覧ください。

表紙をめくっていただき、目次をお願いいたします。諮問の内容に沿う形で、1「次期計画の方向性と基本理念の考え方」、2「基本理念を達成するための基本方針と施策展開の方向性」、3「数値目標」の3つに整理してまとめております。

それでは、答申案の内容の説明を行います。1ページをご覧ください。「はじめに」では、審議会での計画検討の前提といたしまして、これまでの経緯や、社会情勢の変化に伴

うごみ処理分野における新たな課題等について、簡単にまとめております。

次に、2ページをご覧ください。1「次期計画の方向性と基本理念の考え方」です。

まず、(1)「背景と次期計画の方向性」として、アからエの4点で、本市の現状や社会的な背景を踏まえた次期計画の全体的な方向性についての意見をまとめております。

続いて、(2)「基本理念の考え方」につきましては、いただいた主な意見をアからウの3点でまとめています。アとイについては、基本理念で使用する言葉の検討の際に、部会での議論を集約していくなかで、いただいたご意見についてまとめたものです。

続いて、3ページをご覧ください。2「基本理念を達成するための基本方針と施策展開の方向性」についてです。

最初に、全体に関する内容といたしまして、1番目の○では、現行計画の3つの柱の踏襲について、2番目の○では、市民・事業者に対して具体的な役割を明示する必要性について、それぞれ記載しています。

続いて、各基本方針の内容です。まず、(1)「基本方針1 発生抑制(リデュース)・再使用(リユース)」についてです。

最初に、ア「基本方針の方向性」については、(ア)で、リデュースに係るごみ減量のターゲットの具体的な明示、(イ)で、リユースを中心とした循環経済の観点を、それぞれ記載しています。

続いて、イ「基本方針実現のための施策展開の方向性」についてです。(ア)で、フリマアプリの有効活用によるリユースの推進、(イ)で、ワンウェイプラスチックの削減、(ウ)で、海洋プラスチック問題、(エ)で、生ごみの削減に関連した水切りの重要性、そして、4ページに進んでいただきまして、(オ)で、食品ロスの削減について、それぞれ記載しています。

次に、(2)「基本方針2 再資源化(リサイクル)」についてです。最初に、ア「基本方針の方向性」ですが、焼却ごみの削減による環境負荷の低減と、新たな資源の消費抑制による持続可能な社会の実現への貢献に、まとめております。

次に、イ「基本方針実現のための施策展開の方向性」につきましては、再資源化の余地が見込まれるごみ種の再資源化施策の方向性として、(ア)でプラスチック、(イ)で生ごみ、(ウ)で古紙類について、それぞれまとめています。そして(エ)では、民間事業者ルートの活用について記載しています。

次に、5ページをご覧ください。(3)「基本方針3 ごみ処理システムの構築」についてです。

まず、ア「基本方針の方向性」につきましては、(ア)で、2050年カーボンニュートラ

ルを見据えた脱炭素社会の構築への寄与、（イ）で、様々なリスクに対応できる安定性と限られた人的・物的資源を有効に活用するための効率性の両立について、それぞれ記載しています。

次に、イ「基本方針実現のための施策展開の方向性」につきましては、（ア）で、ごみ出しに関する高齢者・障害者等への支援、（イ）で、ICTの活用、（ウ）で、廃棄物処理分野における脱炭素技術、（エ）で、焼却残渣の再資源化、（オ）で、自然災害全般に対する備えとして万全な災害廃棄物処理体制の構築、以上の5点にまとめています。

次に、6ページをご覧ください。3「数値目標」についてです。

まず、（1）「ごみ量の将来予測」では、アで、家庭系ごみ・事業系ごみの推計方法、イで、直近年度がイレギュラーな数値となっていることへの留意について、それぞれまとめています。

続いて、（2）「数値目標の項目について」では、アで、現行計画の5つの数値目標の次期計画での継続、イからエで、5つの数値目標の設定の意義についてまとめています。

また、オでは、家庭系と事業系に分けた数値目標の整理、カでは、食品ロス削減に関する数値目標の設定について、それぞれ記載しています。

次に、7ページをご覧ください。（3）「数値目標水準の設定について」です。

アで、数値目標水準の設定方法、イで、施策の減量効果と数値目標の整合性、ウで、市民・事業者にとって分かりやすい明確な目標値の提示について、それぞれまとめています。

答申案の説明は以上となります。本答申につきましては、本日の審議会でもいただいたご意見を踏まえて調整を行い、次回の5月末頃に開催予定の審議会において、委員の皆様にも再度ご確認をいただいたうえで、確定させていただく予定です。

最後に、資料2-3「意見票」をご覧ください。答申案の内容につきましては、この後、ご意見等をいただきますが、時間も限られておりますので、本日ご欠席の委員の方も含めまして、後日のご意見をお受けしたいと考えております。

審議会後にご意見をいただける場合は、4月8日（金曜日）までに、FAXや電子メール、郵送等の方法で、記載の提出先にご提出くださいますようお願いいたします。なお、この様式ではなく、別の形でご提出いただいても構いません。また、ご意見等がない場合は、ご連絡いただく必要はございません。

議題（2）の説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

【三須会長】ありがとうございます。それでは、ただいまのご説明につきまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。

【倉阪委員】これまでの千葉市の「一般廃棄物処理基本計画」は、かなり成功してきた部

類にあたると思っています。なぜかという、「焼却ごみ1／3削減」という明確な目標があって、その位置付けも「焼却炉の運用を3清掃工場体制から2清掃工場体制に削減しなければならないので、焼却ごみ量を3分の1削減しましょう」という形で、市民にとってかなり分かりやすい目標が提示されていて、市民がそれに協力することで実現することができた。これは全国的に見ても、かなり成功している部類だと思います。

ただ、これから市民に対して、どのような働きかけをしていくのかということになると、「3分の1削減」のような分かりやすい目標が、骨子案の段階では見えていません。今後、どのような形で市民に働きかけを行うのか、恐らく、スローガンにあたるどころがかなり重要になってくると思います。

数値目標についての議論は、答申案に記載されていますが、それを踏まえて、分かりやすく、市民の意識に刺さるようなスローガンを考えていただきたいと思います。今後の計画策定作業においては、そのあたりがかなり重要になってくると思いますので、十分に知恵を絞っていただきたいと思います。

【東端廃棄物対策課長】ご意見ありがとうございます。ただいまのご意見を答申案に盛り込むかどうかについては、検討させていただきたいと思いますが、ごみの減量のために市民は何をすればいいのか、市民に何をしたいのかということが、しっかり伝わるような計画にしたいと思っています。

また、スローガンについては、市民にとって分かりやすく、ごみの減量に取り組みやすくなるものを提示していきたいと思います。

【三須会長】ほかに、ご意見等がないようですので、本件についての審議を終了させていただきます。

続きまして、次第の3「その他」に移ります。事務局より、何かございますか。

【東端廃棄物対策課長】特にございません。

【三須会長】ないようですので、本日の議事は終了となります。皆様、スムーズな進行にご協力いただき、ありがとうございました。それでは、マイクを事務局にお返しいたします。

【伊橋廃棄物対策課課長補佐】三須会長、ありがとうございました。以上をもちまして、令和3年度第3回廃棄物減量等推進審議会を終了とさせていただきます。

次回の開催は5月末頃を予定しております。日時が決まり次第、開催通知を委員の皆様へ送付させていただきますので、よろしく申し上げます。

また、先ほどの議題（2）において説明いたしましたが、答申案についてご意見等ございます場合は、4月8日までにご提出いただきますようお願いいたします。

閲覧用として置かせていただいた計画書冊子につきましては、会議用のものを毎回こちらでご用意いたします。机上に置いたままでお帰りいただきますようお願い申し上げます。

それでは、お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りください。本日は、ありがとうございました。

(午前10時50分 終了)